

2022年4月12日

各位

会社名 株式会社東京個別指導学院
代表者の 代表取締役社長 齋藤 勝己
役職・氏名
(コード番号 4745・東証プライム市場)

問合せ先責任者
取締役経営戦略室室長 堤 威晴
TEL 03-6911-3216

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、「株式会社東京個別指導学院 コーポレートガバナンス基本方針」(※)における取締役会の実効性評価に基づいて、取締役会の実効性に関する評価を行いましたので、その結果の概要について下記のとおり、公表いたします。

記

1. 評価の方法

取締役7名及び監査役4名(計11名)に対して無記名の自己評価アンケートを実施し、取締役会の構成、取締役会の運営、社外役員に対する情報提供等の各評価項目について5段階評価とともに自由意見欄を設けて自己評価を実施しました。

自己評価アンケートの集計結果につき、社外取締役3名、社外監査役2名にて構成される独立社外役員会にて報告書を取り纏め、当社取締役会において、取締役会の実効性に関する分析・評価を実施しました。

2. 分析・評価結果

(1) 分析・評価結果の概要

当社取締役会は、以下の観点から、取締役会の実効性が確保できていると評価しました。

① 取締役会の構成について

今期は、主にIT・財務の分野における知識・経験・能力等の専門性を持つ取締役を増員した11名体制の2期目であった。

- ・取締役のメンバー構成は昨期と同じで、かつ昨期の高評価を保っていることから、員数、スキル構成の質とバランスについても長期的な経営の方向性や事業戦略に照らして適切だといえる。
- ・昨期と同様、多様な経験及び専門性をもつ独立社外取締役が員数の42.8%を構成し、毎回の取締役会において社外取締役を含め自由かつ闊達な議論が展開されている。

② 取締役会の運営について

・今期もオンライン会議での運営となり、会議に想定以上に時間を要した昨期の改善活動として、開催回数、審議時間、議案選定の見直しを行ったが、昨年と同程度の評価にとどまった。運営には改善の余地があるという評価だといえる。

・特に社外役員が審議する上で役立つ情報（議案の背景や隠れた課題等）をより時間をかけて説明するか、資料内に入れると今以上に議論の質が高まる。

(2) 分析・評価結果から抽出された課題

当社取締役会の実効性を更に高めるために取り組むべき課題として、以下の課題を抽出しました。

- ① 取締役会の運営の課題については、今後もリアルとオンラインを併用しながら運営していくことを前提とし、時間配分など議事進行について工夫し、より活発な議論ができるようにする。
- ② 取締役会に付議される議案については、取締役会における議論の質と意思決定のスピードを今以上に高めるため、当該議案の内容、性質等を鑑みながら、付議事項のテーマ、分類、配分を継続的に検討していく。

また、議案の審議に必要な資料や説明内容を含めて検討を重ね、より質の高い議論ができるようにする。

3. 今後の対応

当社は、上記の分析・評価を踏まえ、取締役会の実効性の更なる向上を目指し、抽出された課題の改善に努めてまいります。

また、評価の方法、プロセスの改善を検討し、ガバナンス体制の更なる強化を図ってまいります。

以上

(※) URL : <https://www.tkg-jp.com/about/governance.html>